

「文化力の拠点」における新県立中央図書館

新県立中央図書館 基本構想

目指すべき姿

① 県民の生涯学習・
読書活動の拠点
としての図書館

② “ふじのくに”の
ことなら何でも
わかる図書館

③ 県内市町立
図書館等を強力に
支援する図書館

④ 県民が出会い
交わり、新しい文化を
育む図書館

既存サービスの
拡充

新規機能

新県立中央図書館 基本計画(案)

時代に応じた県立図書館の役割

図書館サービス
<ul style="list-style-type: none"> ・快適な閲覧環境による資料提供 ・専門的レファレンス、課題解決型支援 ・多様な県民の特性に対応 ・子ども図書館による児童サービス ・デジタル化・オープンデータ化推進 ・講座・イベント、ネット利用サービス ・「葵文庫」など貴重書の常設展示 ・歴史文化情報センターの併設
市町立図書館等への支援
<ul style="list-style-type: none"> ・県全体の図書館サービスを底上げ ・先進的サービスの試行
資料整備計画
<ul style="list-style-type: none"> ・既存の収集方針を維持しながら拡充
「読書県しずおか」の推進
<ul style="list-style-type: none"> ・読書推進施策を集約し推進
「文化力の拠点」との連携
「文化力の拠点」施設に伴う機能
<ul style="list-style-type: none"> ・本のある「新しい知的空間」を設置 ・賑わいを創出する事業の実施

新県立中央図書館の特徴

県民の知のインフラとしての図書館

本に囲まれる
体験

- ・豊富で多彩な蔵書を身近に利用
確かな収蔵能力、公開書庫 → **開架日本一規模**
- ・調査・研究に没頭できる落ち着いた環境
様々なタイプの閲覧席、高度なレファレンス
- ・誰もが利用しやすい施設とサービス
開館時間の延長、ユニバーサルデザイン
- ・静岡県全体を支える県内図書館の支援
市町立図書館、学校図書館の支援
- ・読書活動の推進拠点
全点収集の児童書を有する **子ども図書館**
- ・県民の情報保障拠点
豊富な地域資料、県史編さん資料、歴史的公文書

利用者想定 年間100万人
収蔵能力 170万冊～200万冊程度
想定規模 16,000㎡程度



新しい知的空間

- ・図書館の枠を超えた新しい「本のある空間」の創造
「文化力の拠点」各機能を本棚がつなぐ
新書、マンガも含めたテーマ別配架で「静岡を知る」
交流を通じて新たな文化を創造
本・モノ・コト・人で静岡の文化と知を体験